

まちづくり懇談会内容

日 時：令和 3 年 7 月 1 日（木）18：30～20：03

場 所：総合福祉センター「しゃるる」研修室 A・B

出席者：18 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 懇談

- (1) 栗山赤十字病院の改築（資料 1 参照）
- (2) 栗山駅南交流拠点施設整備事業（資料 2 参照）
- (3) 令和 3 年度の主要施策（資料 3 参照）

4. 自由懇談

5. その他

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築】

町民：以前、議会での町長の話で、建築にあたって地元の業者の活用を栗山赤十字病院側に伝えておくと話していた。また、再生可能エネルギーの活用についてはどうなったか。

町長：町建設協会などとの懇談でも、これだけ大きな事業費での工事なので、下請けでもよいので地元の企業が参入できるような仕組みを栗山赤十字病院に要請してもらいたいという強い要望があった。4月26日に東京の日赤本社に訪問して、本部長との話の中で、下請けよりも上のJVを組んでもらえるように要請をした。本社としてもなるべく前向きに検討すると回答をいただいたので、今後も働きかけていきたいと思っている。

栗山赤十字病院改築準備室長：実体的には今後の設計となるため確定していないが、業者からは太陽光パネルの設置や自然風・自然光を使った光・空調の確保、バイオマス発電などといった提案もいただいた。今後活用できるものは活用していきたい。

町民：改築後、病院の病床数を減らすとのことだが、これは建物の関係か。予算の問題か。これから高齢化とともに病人が増えると思う。ベッドの数が減るのは問題なのではないか。

町長：現在の病床数は136床で、稼働率は8割。栗山赤十字病院とも病床数を協議したが、現在の稼働率と医療需要推計によると、今以上に高齢化にはなるが、人口減少も進んでいき、統計的には病床数は減るという結果が出ているので、その結果を勘案して決定した。ただ、長期入院が可能な療養病床40床は今後も確保していけるように要請していきたい。逆に10年後、20年後、100床が埋まらないという課題は出てくるかもしれないので、その課題についても考えていきたい。

町民：今後100床に減らしても対応できるという考えか。

町長：そうである。

町民：病院の建て替えについては、そもそも栗山赤十字病院から要請があったのか。

町長：栗山赤十字病院の建て替えは長年の町政課題だった。一番のきっかけは耐震診断の結果だ。

町民：栗山赤十字病院自体が地域にとって魅力ある病院なのか。診療科目を見たら、町内の開業医で賄える内容である。もっとみんなが必要としているものにお金をかけてもいいと思う。人口は減っていき、高齢になると介護保険料など個々の負担が増えてくる。新しいものができる一方で、古い施設もある。それに関わってくる維持管理などを見直す時が来ているのではないか。

町長：栗山赤十字病院は町にとって必要と考えている。これまでたくさん議論を重ね、真剣に考えてきた結果だ。

【栗山駅交流拠点施設整備事業】

町民：全ての政策は課題を解決・対策するための手段だとしている。ではラジオ局はどうして実施することになったのか。何か他の手段はあったのか。

町長：きっかけとしては、災害時に情報を発信する手段がないというところから始まった。災害が増えていることから、関連する情報をいち早く町民に伝える必要がある。防災無線の整備や価格などの議論を重ねて、コミュニティFMを行うことで、議会とも協議して結論を出した。防災だけではなく、平時に動かすことで、商店街を含め、町を盛り上げていこうと、災害時は緊急放送となる町民参加型のラジオとして、施策に組み入れた。

町民：災害時の目的が一番だが、それだけだともったいないという考えは分かった。費用につい

ては、他の選択肢と比べるとどうだったのか。

ブランド推進課コミュニティ放送局担当主幹：防災無線を設置すると5億円ほどかかるが、コミュニティFMだと7、8千万円ほどであり、かなり安くなる。さまざまな地域情報や、町のイベント情報を発信できるので、コミュニティFMを採用した。

町民：資料11ページの管理運営について、4つの部分を協力隊に頼ることになっている。協力隊の方々が町おこしをしてくれるのは大変ありがたいが、商店街や町民の方が主体的に関わる必要があると思う。また、ラジオは個人的に防災にしか効果がないと思う。ラジオを付けるという習慣はなかなかない。どれだけの人が防災以外でラジオを要望しているのか。

ブランド推進課栗山駅南交流拠点施設担当主幹：将来的な施設運営はまちづくり会社が担っていくことを考えている。運営を誰がやるかという点において、現状、町内で確実に担ってもらえる方は存在しないと思っている。そのため、地域おこし協力隊を採用して、担い手として育成を進めている。これからその母体となる新たな観光の推進体制を作り、栗山の観光の在り方や、人口づくりについての検討を商店街や町民に入っていただきながら議論していく。

町民：プロの手を借りるのはいいけれど、難しいからといって地元の人を入れないというのは、ますます人が離れていくのではという懸念がある。町内の飲食店との話が十分になされていないと角田のまちづくり懇談会の際に話したが、そうした考えが必要だ。

ブランド推進課栗山駅南交流拠点施設担当主幹：協力隊に全てをお願いするというわけではない。今、協力隊員は、町民と関係を作ってなじんでいこうとしている。コロナ禍のため町民とのコミュニケーションは取りづらいが、何とか町内のいろいろなところに足を運んだり、できることを考えたり、外に出て関わろうとしている。協力隊員と町民との意識に差が生じないように、3年間しっかりとコミュニケーションを取りながら活動していきたい。

【令和3年度の主要施策】

町民：高校が地元にあるというのは絶対の必要条件である。高校の魅力を作るには、個々の生徒のレベルアップと、積み重ねが必要である。最終的には生徒みんなで勉強のレベルアップをしないといけない。

教育長：女子硬式野球部を作ること自体が魅力づくりではない。学び方を変えることで、学びたいと思えるような学校にしたい。これまでいろいろな議論をした中で進めていくので、町民皆さんの力も借りながら、今後の動向を見ていただきたい。

町民：栗山町は「クリエイトするまち」をうたっているが、実際にクリエイターを呼ぶよりも、本当に町に必要な人は、課題解決ができる人だと思う。一つは地域おこし協力隊のように外部から来てもらうというものもあるが、もう一つは、地域内で教育の質をあげることだ。教育というのは資格を取ることだけではなく、課題解決ができる、これからの時代に沿った教育を提供することが大切だと考えている。これからの時代、資格の勉強など、みんなが同じようにコモディティ化していくが、それでは市場に出たときにやっていけない。現場で動くだけの人ではなく、課題解決できる人を育てる必要がある。現状、栗山高校でそれができているかは怪しいので、高い人的資源を持った人達を確保するためにも、教育と投資が必要。今後、栗山高校で町内の教育を改善していく計画はあるのか。また、町内の教育の質を上げれば、移住者も増えるが、内部から人が育つことによって、栗山町で生まれ育ったというだけで、ある程度の思い入れを持ち、帰ってきたくなる町にもなり得る。人的資源は一度町を出たとしても帰ってくる。そのような教育を実現させるべきだと考えているが、今後どのような教育を提供していこうと

町は考えているか。

教育長：地元の子を地元の人たちで育てるというのは当然。課題解決のため、どうやったらできるだろうと考える機会、本当に大切だと思う。これからはそういった力を持つ人間が求められていく。ICT など道具はたくさんあるが、あくまで人それぞれがどう考えるか、子どもたちが自分で課題を見つけて、自分で一生懸命やっていくことが必要。ただそれは、地元の人たちの力を借りないといけない。まだまだ不足しているものを地元に住んでいる人が支えていくことが必要なので、多種多様な栗山の人たちに時間を作ってもらい、力を借りていきたい。

【自由懇談】

町民：新たに墓を建てようとしても、後を託す人がいない。合同のお墓を建てようとする考えはあるのか。

町長：議会でも議論したが、人口減少でお墓を守れないという問題が出ているのは事実。第7次総合計画策定に関わる政策課題として投げかけていこうと思うので、検討していく。

町民：クリエイトするとは、何の課題をどう解決しようとしているのかずっと疑問だった。移住したときに資料を見せてもらったが、この政策そのものが楽観的なものではないか。

町長：クリエイトとは、今を変えていくということを言葉に込めている。人口減少が進み、小規模自治体は今後疲弊していくのが時代の流れだが、その中で何ができるのかを考えていくことが重要。いろいろな事業をやっているが、そこに一つ一つのクリエイトしていく考えと、気持ちを集中させていく合言葉として打ち出している。栗山らしい独自性を出し、教育もふるさと教育という、自然体験を軸として、いろいろな人々が関わっている。

町民：町が教育面から、町民・商店街など、みんなから求められているのは初めてだと思う。栗山町は本当に優秀な人材がたくさんいて、隠れているだけで見えていない方もいるといつも感じている。今日出席した方の発言は、町に何ができるのだというメッセージも込めての意見だと思う。町の中にいると外からの様子が分からないけれど、クリエーターということで町外・道外など、外からの人から見ると、町の魅力が遅れているといった、アドバイスをくれる方々が結構いると思う。そうした方と交わることで、今後栗山町はもっといい町になると思っている。

20:20 終了